第2回安全基準・検査WG（議事概要）

日 時：令和6年11月19日（火）13：30～15：30

場 所：合同庁舎3号館11F 特別会議室

出席委員：清水座長、村井委員、三輪委員、渡部委員、田村委員、土田委員、間島委員、巢籠委員、中村委員、四方委員、平尾委員、飯島委員、尾形委員、山田委員、村田委員、小倉委員

議事次第に沿って、事務局、日本海洋科学、船舶技術研究協会から資料の説明を行い、意見交換を行った。主な意見は以下の通り。

議事概要：

<議題1. 自動運航船安全基準の修正案>

P.1 「安全基準の構成」について

- ・係留、投揚錨についての要件も作り込むべきではないか。

P.11 「2章 - 2.3 衝突・座礁回避」について

- ・機器メーカーの自動運航システム開発の指針とするためにも、同時に複数隻対応可能であるという自動運航船の優位性を活かすような要件は重要ではないか。
- ・「リスク軽減操船」はリスクを認識した上で行う行為であり、前もって安全に繋がる操船をするという本来の意図とは少し異なるため、表現を修正すべきではないか。
- ・夜間も昼間と同等に見える赤外線カメラを持つ自動運航船の操船においては、発光信号は不要ではないか。

P.12 「2章 - 2.4 経路の実行・監視」について

- ・(1)は「計画された経路」、(2)は「航海計画」となっており、表現を統一すべきではないか。
- ・航海計画に離着棧が含まれているかのように見えるため、表現を修正すべきではないか。

P.24 「3章 - 3.1 一般」について

- ・「通信途絶又は通信品質の劣化」とあるが、どちらか一方ということはないので、表現を修正すべきではないか。

P.28 「3章 - 3.2 機関の遠隔監視」について

- ・電気推進やタービンに対応する要件になっていないため、これらも対象に含めることを検討すべきではないか。

P.29 「3章 - 3.3 航行の遠隔監視」について

- ・操舵機器等の制御システムの状態監視についての要件を記載すべきではないか。

<議題 2. MEGURI2040 プロジェクトにおけるシステムの概要について>

- ・資料 1 の P. 11 にもあるとおり、針路や速力の変更等が船員に分かるように表示の仕方を工夫していくべきではないか。
- ・船員が分かるように表示しているかの検査については、メーカーの競争領域の確保と船員の利便性の両立を考慮した上で検討すべきではないか。

<議題 3. 自動運航船の検査方法の方針>

資料 3-1 P. 4 「検査方法における既存手法等の活用」について

- ・「システム習熟のための教育や訓練等」とあるが、ECDIS の資格・講習のような混乱を生まないように船員政策や教育の面を進めていくべきではないか。
- ・個々の機器に対してライセンスが要求されるという問題は、メーカーとユーザーの間でより詳細な議論をしていくべきではないか。
- ・新たな資格・講習を要求するのであれば、内航船では国土交通省の認定機でない ECS を搭載している船も多く、その場合 ECDIS 限定解除に必要な講習を受けていないという実態を踏まえた上で検討すべきではないか。

以上